

「第7期 福島子ども未来塾 第3回」



【参加者】 小学5年生～中学1年生
 【場所】 浪江町内、双葉町内
 相馬市松川浦地区



○事業趣旨

- ・ 東日本大震災について学び、ふるさと福島県に貢献する意識を高める。
- ・ 海洋生物を捕獲する活動を通して、命の大切さを考える。

○参加者内訳

| 対象 | 男 | 女 | 計 |
|-------|----|----|----|
| 小学5年生 | 11 | 19 | 30 |
| 小学6年生 | 11 | 14 | 25 |
| 中学1年生 | 3 | 0 | 3 |
| 中学2年生 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 25 | 23 | 58 |

○活動日程

| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
|-----------|----|----|----|------|----------|-------|------|-------|------------|-----|----|----|------|--------|----|----|------|----|
| 10/23 (土) | | | | | 到着受付 | 開校式 | 昼食 | 移動 | 浪江復興プログラム | | | | バス移動 | ナイトツアー | 夕食 | 入浴 | 就寝準備 | |
| 10/24 (日) | 起床 | 朝食 | 準備 | バス移動 | ボランティア活動 | 磯カニつり | バス移動 | 浜焼き体験 | 漁師が語る福島のお話 | 開校式 | | | | | | | | |

○研修トピックス

「浪江復興プログラム ～東日本大震災の被害を確認し、復興の取り組みを知る～」

① まちなか探検

浪江駅から道の駅なみえまで歩いた。子どもたちは、歩いてみて、まだ復興の途中であることを感じ取っていた。また、商店街のシャッターに絵が描かれている場所を見て、嫌な思い出を楽しい思い出に変える浪江町の方のすごさを感じていた。

② 福島水素エネルギー研究所

施設内を見学した。見学を通して、水素エネルギーのメリット、デメリットがあることを理解していた。また、子どもたちの感想で、「持続可能な社会(SDGs)を目指していることを知り、資源を大切にしよう。」と改めてエネルギーの大切さを実感し内容が見られた。

③ ワークショップ

まちなか探検や福島水素エネルギー研究所の見学を通して、気付いたことや考えたことをグループ内で共有した。そこから、未来について一人一人考え、グループのメンバーと共有しながら自分なりの未来について考えた。未来の自分に向けて、取り組んでいくことがはっきりした子もいた。全体で、グループ内で出た意見を全体で共有する場面では、緊張に負けずにグループで意見をまとめて発表する姿やそれを聞いて自分の考えを積極的に発言する子の姿が見られた。

④ 福島の漁業について

福島の漁業の現状を詳しく教えていただいた。その後、子どもたちが、事前に調べてきた福島の海でとれる魚の絵をそれぞれ描いた。

「相馬市松川浦の海を見よう ～松川浦の海で活動しよう～」

子どもたちは、福島の海について学習したことで、福島の海に愛着を感じることができた。子どもたちは、原釜尾浜海水浴場でのゴミ拾いのボランティア活動に取り組んだ。浜辺2kmをゴミを拾いながら歩き一人1枚のごみ袋いっぱい拾っていた。その後、磯に移り、磯カニ釣り体験を行った。磯のにおいを感じながら、楽しく体験をすることができた。今まで、カニを触ったことがない子も触ったり、釣ったカニを大切に海に返し命の大切さを感じていた。

昼食後は、松川浦の漁師のお話を聞いたりやイカ焼きを美味しくいただいたりした。

○成果と課題○

<成果>

・ 浪江町の方、相馬市松川浦の方に丁寧に教えていただいたり、活動をサポートしてもらったりして充実した体験ができた。感想カードには、福島の良いところ、人の温かさ、福島県への愛着を深まったことを書いた子が多くいた。

<課題>

・ 天候が大変よく、素晴らしい活動ができた。天候不良の場合のプログラムも用意していたが、荒天の場合であっても、子どもたちに響く活動になるよう、考える必要がある。